

This Page Is Inserted by IFW Operations  
and is not a part of the Official Record

## **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning documents *will not* correct images,  
please do not report the images to the  
Image Problem Mailbox.**

English Abstract attached  
discussed at p.2 of spec.

(10) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-196240

(P2002-196240A)

(43) 公開日 平成14年7月12日 (2002.7.12)

(51) Int. CL <sup>7</sup>	国際記号	F I	特許庁 (参考)
G 0 2 B 15/20 15/18		G 0 2 B 15/20 15/18	2 H 0 8 7

特許請求 点請求 請求項の数17 OL (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2000-382498 (P2000-382498)  
(22) 出願日 平成12年12月25日 (2000.12.25)

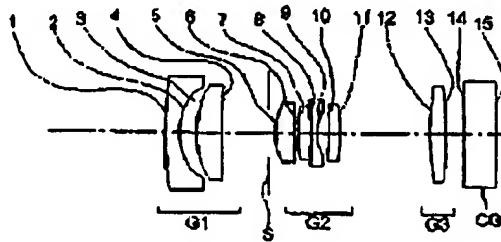
(71) 出願人 000001270  
コニカ株式会社  
東京都新宿区西新宿1丁目26番2号  
(72) 発明者 野辺 智亮  
東京都八王子市石川町2870番地コニカ株式  
会社内  
Pターム (参考) 2H087 K401 M414 PA06 PM07 PA18  
PA19 PB07 PB08 QA02 QA07  
QA17 QA21 QA25 QA33 QA37  
QA41 QA42 QA45 QA46 PA05  
RA12 RA13 RA32 RA42 SA14  
SA16 SA19 SA32 SA63 SA84  
SB03 SB04 SB15 SB22 SB23  
UA01

(54) 発明の名称 ズームレンズ

(57) 【要約】

【課題】 CCDを用いたデジタルスチルカメラ等に用いるのに好適な、2〜3倍程度の変倍比で、高い結像性能を有したズームレンズを提供する。

【解決手段】 物体側より順に、負の屈折力を有する第1レンズ群、正の屈折力を有する第2レンズ群及び正の屈折力を有する第3レンズ群の3つのレンズ群を有し、第2レンズ群は、物体側より順に正レンズ、正レンズと負レンズの接合レンズ、1枚のレンズで構成し、広角側から望遠側への変倍に際し、第1レンズ群と第2レンズ群の間隔が減少し、第2レンズ群と第3レンズ群の間隔が増大するように、第1、第2、第3の各レンズ群を光軸上を移動させ変倍を行うズームレンズにおいて、第2レンズ群の焦点距離  $f_2$ 、全光学系の広角端での焦点距離  $f$ 、としたとき、 $0.4 < f_2/f < 1.0$  の条件式を満足するズームレンズ。



(2)

特開2002-196240

1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 物体側より順に、負の屈折力を有する第1レンズ群、正の屈折力を有する第2レンズ群、及び、正の屈折力を有する第3レンズ群の3つのレンズ群を有し、前記第2レンズ群は、物体側より順に正レンズ、正レンズと負レンズの接合レンズ、及び、1枚のレンズで構成し、広角側から望遠側への変倍に際し、前記第1レンズ群と前記第2レンズ群の間隔が減少し、前記第2レンズ群と前記第3レンズ群の間隔が増大するように、前記第1、第2、第3の各レンズ群を光軸上を移動させ、変倍を行うズームレンズにおいて、以下の条件式を満足することを特徴とするズームレンズ。

$$0.4 < f_2/f_1 < 1.0$$

但し、 $f_1$ ：第2レンズ群の焦点距離

$f_2$ ：全光束の広角端での焦点距離

【請求項2】 前記第1レンズ群は、少なくとも1枚の非球面を有し、物体側より順に、負レンズ、正レンズの2枚で構成し、以下の条件式を満足することを特徴とする請求項1に記載のズームレンズ。

$$-0.7 < f_1/f_2 < -0.3$$

但し、 $f_1$ ：第1レンズ群の焦点距離

【請求項3】 前記第1レンズ群は、物体側より順に、像側に凹面を向けた負メニスカスレンズ、物体側に凸面を向けた正メニスカスレンズの2枚で構成することを特徴とする請求項2に記載のズームレンズ。

【請求項4】 前記第1レンズ群は、2枚の負レンズと1枚の正レンズの3枚で構成し、以下の条件式を満足することを特徴とする請求項1に記載のズームレンズ。

$$-0.7 < f_1/f_2 < -0.3$$

【請求項5】 前記第1レンズ群は、物体側より順に、像側に凹面を向けた負メニスカスレンズ、負レンズ、正レンズの3枚で構成することを特徴とする請求項4に記載のズームレンズ。

【請求項6】 前記第1レンズ群は、物体側より順に、像側に凹面を向けた負メニスカスレンズ、負レンズと物体側に凸面を向けた正メニスカスレンズの接合レンズで構成することを特徴とする請求項5に記載のズームレンズ。

【請求項7】 前記第2レンズ群は、少なくとも1面に非球面を有することを特徴とする請求項1から6のいずれか1項に記載のズームレンズ。

【請求項8】 前記第2レンズ群の最も物体側にある正レンズに少なくとも1面に非球面を有することを特徴とする請求項7に記載のズームレンズ。

【請求項9】 以下の条件式を満足することを特徴とする請求項1から8のいずれか1項に記載のズームレンズ。

$$|f_1/f_{21}| < 0.5$$

但し、 $f_{21}$ ：第2レンズ群の最も像側に位置するレンズの焦点距離

2

【請求項10】 前記第2レンズ群の最も像側にあるレンズは、像側に凸面を向けたメニスカスレンズであり、以下の条件式を満足することを特徴とする請求項1から9のいずれか1項に記載のズームレンズ。

$$|f_1/f_{21}| < 0.4$$

【請求項11】 前記第2レンズ群の最も像側にあるレンズは、正レンズであり、以下の条件式を満足することを特徴とする請求項1から10のいずれか1項に記載のズームレンズ。

$$0.0 < f_2/f_{21} < 0.4$$

【請求項12】 前記第2レンズ群の最も像側にあるレンズは負レンズであり、以下の条件式を満足することを特徴とする請求項1から10のいずれか1項に記載のズームレンズ。

$$-0.3 < f_2/f_{21} < 0.0$$

【請求項13】 以下の条件式を満足することを特徴とする請求項1から12のいずれか1項に記載のズームレンズ。

$$0.5 < f_2/f_1 < 0.7$$

【請求項14】 前記第3レンズ群は、正の屈折力を持つ単レンズであることを特徴とする請求項1から13のいずれか1項に記載のズームレンズ。

【請求項15】 前記第3レンズ群は、アッペ数5(以上の正の屈折力を持つ単レンズであることを特徴とする請求項14に記載のズームレンズ。

【請求項16】 前記第3レンズ群は、広角側から望遠側への変倍に際し、光軸上を物体側に単独に移動し、以下の条件式を満足することを特徴とする請求項1から15のいずれか1項に記載のズームレンズ。

$$0.2 < f_3/f_1 < 0.7$$

但し、 $f_3$ ：第3レンズ群の焦点距離

【請求項17】 前記第3レンズ群は、光軸方向に移動することにより、無限遠物体から近距離物体におけるフォーカシングを行い、以下の条件式を満足することを特徴とする請求項1から16のいずれか1項に記載のズームレンズ。

$$0.2 < f_3/f_1 < 0.7$$

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明はズームレンズに関し、デジタルステルカメラ、もしくは、ビデオカメラ等に用いられ、特に、高画素タイプCCDを用いたカメラに適した高解像力を有しており、広角端でのFナンバーが2.8程度、変倍比が2～3倍程度のズームレンズに関する。

【0002】

【従来の技術】 近年、パソコンの普及が進み、また、パソコンを用いて画像データを扱うことも多くなり、画像データを取りこむためのデジタルステルカメラ等の需要が増えている。また、CCDの高画素化に伴い、より高

(3)

特開2002-186240

4

い結像性能を有するズームレンズの要望が高まってきている。更に、携帯するのに便利であるコンパクトなもの求められている。

【0003】CCD等の固体撮像素子を用いるカメラに適した3倍程度のズームレンズは従来より技術開示されており、例えば、特開平10-39214号公報、特開平11-52248号公報、特開平11-287953号公報、特開2000-9997号公報等が知られている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、これらの従来例では、広角端における歪曲収差が非常に大きかったり、広角端の画角が小さかったり、また、レンズ全長が大きいという問題があった。

【0005】本発明は上記の課題に鑑みなされたもので、本発明の目的は、高画素タイプのCCDを用いたデジタルスチルカメラ、ビデオカメラ等に用いるのに好適な

$$0.4 < f_1/f_2 < 1.0 \dots\dots\dots [1]$$

但し、 $f_1$ ：第2レンズ群の焦点距離

$f_2$ ：全光学系の広角端での焦点距離

(2) 前記第1レンズ群は、少なくとも1枚の非球面を有し、物体側より順に、負レンズ、正レンズの2枚で構成

$$-0.7 < f_1/f_2 < -0.3 \dots\dots\dots [2]$$

但し、 $f_1$ ：第1レンズ群の焦点距離

(3) 前記第1レンズ群は、物体側より順に、像側に凹面を向けた負メニスカスレンズ、物体側に凸面を向けた正メニスカスレンズの2枚で構成することを特徴とする前記(2)に記載のズームレンズ。

$$-0.7 < f_1/f_2 < -0.3 \dots\dots\dots [2]$$

(5) 前記第1レンズ群は、物体側より順に、像側に凹面を向けた負メニスカスレンズ、負レンズ、正レンズの3枚で構成することを特徴とする前記(4)に記載のズームレンズ。

【0012】(6) 前記第1レンズ群は、物体側より順に、像側に凹面を向けた負メニスカスレンズ、負レンズと物体側に凸面を向けた正メニスカスレンズの接合レンズで構成することを特徴とする前記(5)に記載のズームレンズ。

【0013】(7) 前記第2レンズ群は、少なくとも1枚

$$|f_1/f_{11}| < 0.5 \dots\dots\dots [3]$$

但し、 $f_{11}$ ：第2レンズ群の最も像側に位置するレンズの焦点距離

(10) 前記第2レンズ群の最も像側にあるレンズは、像側に凸面を向けたメニスカスレンズであり、以下の条件式を満足することを特徴とする前記(1)から(9)のいずれか1項に記載のズームレンズ。

【0017】

$$|f_1/f_{11}| < 0.4 \dots\dots\dots [4]$$

(11) 前記第2レンズ群の最も像側にあるレンズは、正レンズであり、以下の条件式を満足することを特徴と

す。また、2～3倍程度の変倍比で、高い結像性能を有したズームレンズを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記の目的は下記のいずれかにより達成できる。

【0007】(1) 物体側より順に、負の屈折力を有する第1レンズ群、正の屈折力を有する第2レンズ群、及び、正の屈折力を有する第3レンズ群の3つのレンズ群を有し、前記第2レンズ群は、物体側より順に正レンズ、正レンズと負レンズの接合レンズ、及び、1枚のレンズで構成し、広角端から望遠端への変倍に際し、前記第1レンズ群と前記第2レンズ群の間隔が減少し、前記第2レンズ群と前記第3レンズ群の間隔が増大するように、前記第1、第2、第3の各レンズ群を光軸上を移動させ、変倍を行うズームレンズにおいて、以下の条件式を満足することを特徴とするズームレンズ。

【0008】

※成し、以下の条件式を満足することを特徴とする前記(1)に記載のズームレンズ。

【0009】

★【0010】(4) 前記第1レンズ群は、2枚の負レンズと1枚の正レンズの3枚で構成し、以下の条件式を満足することを特徴とする前記(1)に記載のズームレンズ。

【0011】

★【0012】(6) 前記第1レンズ群は、2枚の負レンズと1枚の正レンズの3枚で構成し、以下の条件式を満足することを特徴とする前記(1)に記載のズームレンズ。

【0013】

★【0014】(8) 前記第2レンズ群の最も物体側にある正レンズに少なくとも1面に非球面を有することを特徴とする前記(7)に記載のズームレンズ。

【0015】

★【0016】(9) 以下の条件式を満足することを特徴とする前記(1)から(8)のいずれか1項に記載のズームレンズ。

【0017】

【0018】

【0019】

【0020】

【0021】

【0022】

【0023】

【0024】

【0025】

【0026】

【0027】

【0028】

【0029】

【0030】

【0031】

【0032】

【0033】

【0034】

【0035】

【0036】

【0037】

【0038】

【0039】

【0040】

【0041】

【0042】

【0043】

【0044】

【0045】

【0046】

【0047】

【0048】

【0049】

【0050】

【0051】

【0052】

【0053】

【0054】

【0055】

【0056】

【0057】

【0058】

【0059】

【0060】

【0061】

【0062】

【0063】

【0064】

【0065】

【0066】

【0067】

【0068】

【0069】

【0070】

【0071】

【0072】

【0073】

【0074】

【0075】

【0076】

【0077】

【0078】

【0079】

【0080】

【0081】

【0082】

【0083】

【0084】

【0085】

【0086】

【0087】

【0088】

【0089】

【0090】

【0091】

【0092】

【0093】

【0094】

【0095】

【0096】

【0097】

【0098】

【0099】

【0100】

【0101】

【0102】

【0103】

【0104】

【0105】

【0106】

【0107】

【0108】

【0109】

【0110】

【0111】

【0112】

【0113】

【0114】

【0115】

【0116】

【0117】

【0118】

【0119】

【0120】

【0121】

【0122】

【0123】

【0124】

【0125】

【0126】

【0127】

【0128】

【0129】

【0130】

【0131】

【0132】

【0133】

【0134】

【0135】

【0136】

【0137】

【0138】

【0139】

【0140】

【0141】

【0142】

【0143】

【0144】

【0145】

【0146】

【0147】

【0148】

【0149】

【0150】

【0151】

【0152】

【0153】

【0154】

【0155】

【0156】

【0157】

【0158】

【0159】

【0160】

【0161】

【0162】

【0163】

【0164】

【0165】

【0166】

【0167】

【0168】

【0169】

【0170】

【0171】

【0172】

【0173】

【0174】

【0175】

【0176】

【0177】

【0178】

【0179】

【0180】

【0181】

【0182】

【0183】

【0184】

【0185】

【0186】

【0187】

【0188】

【0189】

【0190】

【0191】

【0192】

【0193】

【0194】

【0195】

【0196】

【0197】

【0198】

【0199】

【0200】

【0201】

【0202】

【0203】

【0204】

【0205】

【0206】

【0207】

【0208】

【0209】

【0210】

【0211】

【0212】

【0213】

【0214】

【0215】

【0216】

【0217】

【0218】

【0219】

【0220】

【0221】

【0222】

【0223】

【0224】

【0225】

【0226】

【0227】

(4)

特開2002-186240

5

5

(13) 以下の条件式を満足することを特徴とする前記(1)から(12)のいずれか1項に記載のズームレンズ。

【0020】

$0.5 < f_2/f_1 < 0.7$  ..... [7]

(14) 前記第3レンズ群は、正の屈折力を持つ単レンズであることを特徴とする前記(1)から(13)のいずれか1項に記載のズームレンズ。

【0021】(15) 前記第3レンズ群は、アッベ数50以上の正の屈折力を持つ単レンズであることを特徴とする前記(14)に記載のズームレンズ。

【0022】(16) 前記第3レンズ群は、広角端から望遠端への変倍に際し、光軸上を物体側に単面移動し、以下の条件式を満足することを特徴とする前記(1)から(15)のいずれか1項に記載のズームレンズ。

【0023】

$0.2 < f_2/f_1 < 0.7$  ..... [8]

但し、 $f_1$ ：第3レンズ群の焦点距離

(17) 前記第3レンズ群は、光軸方向に移動することにより、無限遠物体から近距離物体におけるフォーカシングを行い、以下の条件式を満足することを特徴とする前記(1)から(16)のいずれか1項に記載のズームレンズ。

【0024】

$0.2 < f_2/f_1 < 0.7$  ..... [8]

本発明のズームレンズでは、負の屈折力を有する第1レンズ群、正の屈折力を有する第2レンズ群、正の屈折力を有する第3レンズ群を配し、広角端から望遠端へのズームに際して、第1レンズ群と第2レンズ群の間隔が減少し、第2レンズ群と第3レンズ群の間隔が増大するように各レンズ群が移動している。第2レンズ群は、物体側より、正レンズ、正レンズと負レンズの接合レンズ、1枚のレンズで構成することにより、効果的に変倍が行え、光学系全体をコンパクトにすることができる。

【0025】さらに効果的には、第1レンズ群は、物体側より順に凹面と凹面を向けた負メニスカスレンズ、物体側に凸面を向けた正メニスカスレンズで構成し、非球面を有することが望ましく、このような構成にすることにより、レンズ枚数を少なくし広角端で発生しやすい歪曲収差を良好に補正することができる。もしくは、第1レンズ群は、物体側より順に、凹面と凹面を向けた負メニスカスレンズ、負レンズ、物体側に凸面を向けた正メニスカスレンズで構成することが望ましく、このような構成にすることで、主に望遠端での球面収差を良好に補正できる。

【0026】第2レンズ群は、最も像側にあるレンズを像側に凸面を向けたメニスカスレンズにすることが望ましく、このような構成にすることで、第2レンズ群自体をコンパクトにすることができ、更に、非球面を使用す

ることにより、球面収差やコマ収差を良好に補正することができる。

【0027】第3レンズ群は、光軸上を移動することにより、ズームの際に発生するピント位置のずれを補正することができる。また、被写体距離の変化に応じたフォーカシングは第3レンズ群を移動することにより行うのが望ましい。フォーカシングは第1レンズ群を移動させることでも可能であるが、第3レンズ群を移動するときに比べて大きく重い群を動かすことになるためモータの負担が大きくなってしまふ。また、第1レンズ群繰出時の光量を制限するため、第1レンズ群の異なる大型化も短く、第3レンズ群はアッベ数50以上の単レンズであることが望ましい。このような構成にすることで、第3レンズ群で発生する色収差を軽減することが可能になる。

【0028】次に、各条件式について説明する。条件式[1]、及び、条件式[7]は、第2レンズ群の屈折力を規定するもので、十分コンパクトでありながら良好な結像性能を得るためのものである。条件式[1]の下限を越えると、光学系全体が大きくなりコンパクト化が困難になる。逆に上限を越えると、第2レンズ群で発生する諸収差が大きくなり、特に、球面収差、コマ収差が大きくなり、第2レンズ群に非球面を用いても、良好な補正が困難になってしまう。よりコンパクト、高性能なレンズを得るためには、条件式[7]の範囲内であることが望ましい。

【0029】条件式[2]は、第1レンズ群の屈折力を規定するものであり、十分コンパクトでありながら良好な結像性能を得るためのものである。条件式の下限を越えると、第1レンズ群で発生する諸収差が大きくなり、特に、広角端での歪曲収差、倍率色収差、望遠端での像面収差の良好な補正が困難になってしまう。逆に、条件式の上限を越えると、光学系全体のコンパクト化が困難になってしまう。

【0030】条件式[3]、条件式[4]、条件式[5]、もしくは条件式[6]は、第2レンズ群で最も像側にあるレンズの屈折力を規定するものである。条件式[3]の条件式を越えると、第2レンズ群で発生する諸収差が大きくなり、特に、球面収差、コマ収差が大きくなり、また、光学系全体のコンパクト化が困難になる。よりコンパクト、高性能なレンズを得るためには、条件式[4]、条件式[5]、もしくは条件式[6]の範囲内であることが望ましい。

【0031】条件式[8]は、第3レンズ群の屈折力を規定するもので、十分コンパクトでありながら良好な結像性能を得るためのものである。条件式の下限を越えると、バックフォーカスが增大し、また、フォーカシングの際の第3レンズ群の移動量が增大し、全長が長くなるので好ましくない。逆に、条件式の上限を越えると、第3レンズ群で発生するコマ収差、像面湾曲が大きくな

(5)

特開2002-196240

7

8

り、第3レンズ群に非球面を用いても補正が困難になる。

【0032】

【実施例】以下に本発明のズームレンズの実施例を示す。各実施例における記号は下記の通りである。

【0033】

f：焦点距離

F<sub>no</sub>：Fナンバー

ω：半周角

r：屈折面の曲率半径

d：屈折面の隔隔

n<sub>d</sub>：レンズ材料のd線での屈折率

\* ν<sub>d</sub>：レンズ材料のアッペ数

f<sub>1</sub>：第1レンズ群の焦点距離

f<sub>2</sub>：第2レンズ群の焦点距離

f<sub>21</sub>：第2レンズ群の最も厚側に位置するレンズの焦点距離

f<sub>3</sub>：第3レンズ群の焦点距離

f<sub>ω</sub>：全光学系の広角端での焦点距離

また、非球面の形状は光軸方向にX軸をとり、光軸と垂直方向の高さをhと表すと、次の「数1」の式で表される。

【0034】

\* 【数1】

$$X = \frac{h^2/r}{1 + \sqrt{1 - (1 + \kappa)h^2/r^2}} + A_1 h^4 + A_2 h^6 + A_3 h^8 + A_4 h^{10} + A_5 h^{12}$$

【0035】「数1」でκは非球面の円錐定数、A<sub>i</sub>は非球面係数(i=4, 6, 8, 10, 12)を示し、rは近軸曲率半径を示す。

【0036】表中、「\*1」、「\*2」はプラスチックレンズを示す。なお、図1、図3、図5、図7、図9、図11、及び、図13は中間域の無限遠物体の状態をそれぞれ示す。また、図中で、G1は第1レンズ群、G2は第2レンズ群、G3は第3レンズ群、Sは露口絞り、及び、CGはガラスブロックを示す。

【0037】（実施例1）実施例1は、図1、図3、図5、図7、図9、図11、及び、図13に示される実施例である。実施例1の断面図を図1に、レンズ配置図を図2に示す。また、レンズデータを表1、表2に示す。

【0038】

【表1】

30

f=5.42~10.3, F <sub>no</sub> =2.9~4.1, 2ω=64.8°~35.8°				
図番号	f	d	n <sub>d</sub>	ν <sub>d</sub>
1	38.176	1.000	1.516	48.6
2	3.774	1.540		
3	6.520	1.900	1.847	23.8
4	14.470	A		
5	5.912	1.700	1.806	40.9
6	-103.932	0.200		
7	8.372	1.100	1.773	49.6
8	-31.181	0.650	1.847	23.8
9	3.956	0.850		
10	-60.314	1.000	1.816	46.6
11	-11.999	B		
12	21.816	1.400	1.729	54.7
13	-21.830	C		
14	∞	2.700	1.516	48.6
15	∞			
	f	A	B	C
広角端	5.42	7.8965	4.8479	1.1818
中間域	7.7	4.358	7.654	1.4185
望遠端	10.3	1.9430	10.5478	2.1946

【0039】

40 【表2】

(5)

特開2002-196240

10

【表4】

面番号	非球面の円柱定数、 非球面係数
第2面	$\kappa = -1.59330 \times 10^0$ $A_4 = 2.42370 \times 10^{-3}$ $A_6 = -2.88290 \times 10^{-5}$ $A_8 = 1.57510 \times 10^{-6}$ $A_{10} = -3.42010 \times 10^{-8}$
第5面	$\kappa = -4.72020 \times 10^{-1}$ $A_4 = -2.63990 \times 10^{-4}$ $A_6 = -1.98440 \times 10^{-5}$ $A_8 = -2.07050 \times 10^{-7}$ $A_{10} = 6.31620 \times 10^{-7}$ $A_{12} = -7.31770 \times 10^{-9}$
$f_1 = -9.786, f_2 = 9.093$ $f_3 = 15.170, f_4 = 18.187$ $f_W/f_1 = -0.554, f_W/f_2 = 0.596$ $f_W/f_3 = 0.387, f_W/f_4 = 0.298$	

10

面番号	非球面の円柱定数、 非球面係数
第2面	$\kappa = -1.98870 \times 10^0$ $A_4 = 2.00030 \times 10^{-3}$ $A_6 = -4.18840 \times 10^{-5}$ $A_8 = 1.11100 \times 10^{-6}$ $A_{10} = -1.73250 \times 10^{-8}$
第5面	$\kappa = -3.69310 \times 10^{-1}$ $A_4 = -2.87000 \times 10^{-4}$ $A_6 = 3.53940 \times 10^{-5}$ $A_8 = -2.73620 \times 10^{-5}$ $A_{10} = 7.00240 \times 10^{-6}$ $A_{12} = -6.13400 \times 10^{-7}$
第15面	$\kappa = -9.51600 \times 10^0$ $A_4 = 8.05820 \times 10^{-5}$ $A_6 = -7.87460 \times 10^{-7}$ $A_8 = 1.19700 \times 10^{-7}$ $A_{10} = -6.90460 \times 10^{-9}$
$f_1 = -11.306, f_2 = 10.385$ $f_3 = 14.307, f_4 = 20.322$ $f_W/f_1 = -0.479, f_W/f_2 = 0.822$ $f_W/f_3 = 0.377, f_W/f_4 = 0.257$	

20

【0040】（実施例2）実施例2は請求項1～3、7～11、13、16、及び、17に含まれる実施例である。実施例2の断面図を図3に、レンズ収差図を図4に示す。また、レンズデータを表3、表4に示す。

【0041】

【表3】

$f=5.42 \sim 10.3, F_{10}=2.9 \sim 3.92,$ $2\omega=63.8^\circ \sim 35.4^\circ$				
面番号	r	d	$n_d$	$\nu_d$
1	130.040	1.000	1.816	46.6
2	4.234	1.000		
3	8.024	1.900	1.847	23.8
4	29.050	A		
5	5.949	1.700	1.906	40.9
6	164.183	0.200		
7	8.546	1.100	1.773	49.6
8	-32.176	0.550	1.947	23.8
9	4.086	0.950		
10	-32.170	1.000	1.816	46.6
11	-11.095	B		
12	27.408	1.400	1.729	54.7
13	-18.346	0.500		
14	-21.606	1.000	1.497	56.0*1
15	-21.609	C		
16	$\infty$	2.700	1.518	64.1
17	$\infty$			
	f	A	B	C
広角端	5.42	9.0323	4.1301	1.1918
中間端	8.17	4.7083	8.4333	1.0222
望遠端	10.3	1.9438	10.4009	2.1945

【0042】

40

【0043】（実施例3）実施例3は請求項1～3、7～11、及び、13～17に含まれる実施例である。実施例3の断面図を図5に、レンズ収差図を図6に示す。

また、レンズデータを表5、表6に示す。

【0044】

【表5】

50

11

f=5.42~10.3, F <sub>10</sub> =2.9~4.1, 2ω=64.8°~95.8°				
面番号	r	d	n <sub>d</sub>	ν <sub>d</sub>
1	51.975	1.000	1.816	46.6
2	3.672	1.620		
3	6.828	1.900	1.847	23.8
4	18.918	A		
5	5.902	1.700	1.806	40.9
6	-71.749	0.200		
7	8.089	1.100	1.773	49.8
8	-45.688	0.550	1.847	23.8
9	4.012	0.950		
10	-88.578	1.000	1.497	58.0±1
11	-10.502	B		
12	19.730	1.400	1.729	54.7
13	-23.587	C		
14	∞	2.700	1.51633	64.1
15	∞			
	f	A	B	C
広角端	6.42	7.3643	4.8374	1.1918
中間域	7.56	4.2849	7.6094	1.3844
望遠端	10.3	1.9438	11.0310	2.1946

【0045】

【表6】

面番号	非球面の円筒定数、 非球面係数
第2面	$\kappa = -1.65830 \times 10^0$
	$A_4 = 2.34490 \times 10^{-8}$
	$A_6 = -3.52450 \times 10^{-6}$
	$A_8 = 1.90430 \times 10^{-6}$
	$A_{10} = -5.11630 \times 10^{-8}$
第5面	$\kappa = -5.94520 \times 10^{-1}$
	$A_4 = -1.89300 \times 10^{-4}$
	$A_6 = -9.991790 \times 10^{-4}$
	$A_8 = -8.90860 \times 10^{-7}$
	$A_{10} = 4.85480 \times 10^{-7}$
	$A_{12} = -4.04630 \times 10^{-8}$
第11面	$\kappa = -3.15160 \times 10^0$
	$A_4 = 9.95506 \times 10^{-5}$
	$A_6 = 1.50500 \times 10^{-4}$
	$A_8 = -4.93370 \times 10^{-5}$
	$A_{10} = 7.26850 \times 10^{-6}$
f <sub>1</sub> =-9.148, f <sub>2</sub> =8.942	
f <sub>3</sub> =14.941, f <sub>21</sub> =23.072	
f <sub>12</sub> /f <sub>1</sub> =-0.592, f <sub>4</sub> /f <sub>2</sub> =0.606	
f <sub>4</sub> /f <sub>3</sub> =0.363, f <sub>12</sub> /f <sub>21</sub> =0.227	

【0048】(実施例4) 実施例4(以降本項)1~3、

(7)

特開2002-198240

12

7. 9~11. 及び、13~17に含まれる実施例である。実施例4の断面図を図7に、レンズ収差図を図8に示す。また、レンズデータを表7、表8に示す。

【0047】

【表7】

f=5.42~10.3, F <sub>10</sub> =2.9~4.1, 2ω=64.8°~95.8°				
面番号	r	d	n <sub>d</sub>	ν <sub>d</sub>
1	35.417	1.000	1.818	46.6
2	3.854	1.820		
3	6.588	1.300	1.847	23.8
4	14.723	A		
5	6.689	1.720	1.806	40.9
6	-31.284	0.200		
7	8.83	1.280	1.497	58.0±1
8	-3.798	0.500	1.583	30.0±2
9	3.494	0.000		
10	-60.314	1.000	1.816	46.6
11	-9.832	B		
12	15.953	1.400	1.729	54.7
13	-29.669	C		
14	∞	2.700	1.516	64.1
15	∞			
	f	A	B	C
広角端	5.42	8.3901	8.5373	1.1918
中間域	7.56	4.5857	8.0845	1.5787
望遠端	10.3	1.9438	11.6657	2.1946

【0048】

【表8】



13

面番号	非球面の円弧定数、 非球面係数
第2面	$\kappa = -1.61830 \times 10^0$
	$A_1 = 2.34376 \times 10^{-3}$
	$A_5 = -2.52550 \times 10^{-5}$
	$A_9 = 1.32910 \times 10^{-6}$
	$A_{10} = -2.46880 \times 10^{-8}$
第7面	$\kappa = -1.19690 \times 10^{-1}$
	$A_5 = -5.93820 \times 10^{-4}$
	$A_9 = -2.37340 \times 10^{-6}$
	$A_{10} = -2.18520 \times 10^{-5}$
	$A_{12} = 4.18620 \times 10^{-6}$
第9面	$\kappa = -8.05300 \times 10^{-1}$
	$A_5 = -2.52390 \times 10^{-3}$
	$A_9 = 1.84040 \times 10^{-4}$
	$A_{10} = -5.31910 \times 10^{-5}$
	$A_{12} = 1.46880 \times 10^{-5}$
$f_1 = -10.287, f_2 = 8.646$ $f_3 = 14.415, f_{21} = 14.320$ $f_R/f_1 = -0.527, f_R/f_2 = 0.562$ $f_R/f_3 = 0.376, f_R/f_{21} = 0.378$	

【0049】（実施例5）実施例5は請求項1～3、7～9、11、13～15、及び、17に含まれる実施例である。実施例5の断面図を図9に、レンズ収束図を図10に示す。また、レンズデータを表9、表10に示す。

【0050】

【表9】

30

40

50 【0052】（実施例6）実施例6は請求項1、4～1

(8)

特開2002-196240

14

$f = 8.25 \sim 23.36, F_{10} = 2.88 \sim 5.05,$ $2\omega = 59' \sim 21.4'$				
面番号	r	d	$n_d$	$\nu_d$
1	124.787	1.000	1.516	46.6
2	7.462	2.410		
3	12.249	1.760	1.547	23.8
4	27.04	A		
5	8.059	1.600	1.805	40.9
6	1609.848	0.200		
7	15.173	1.490	1.773	49.8
8	-42.914	1.280	1.805	23.4
9	5.607	1.380		
10	44.681	1.170	1.729	46.6
11	-44.701	B		
12	32.271	1.850	1.697	55.5
13	-38.5	C		
14	$\infty$	2.970	1.516	64.1
15	$\infty$			
	f	A	B	C
広角端	8.25	17.441	7.397	2.23
中間端	13.80	7.55	13.255	2.504
望遠端	23.36	1.9	23.8	2.475

10

20

【0051】

【表10】

面番号	非球面の円弧定数、 非球面係数
第2面	$\kappa = -3.01053 \times 10^0$
	$A_1 = 7.03210 \times 10^{-4}$
	$A_5 = -6.29270 \times 10^{-6}$
	$A_9 = 1.15660 \times 10^{-7}$
	$A_{10} = -7.93770 \times 10^{-10}$
第5面	$\kappa = -1.78802 \times 10^0$
	$A_1 = 2.50050 \times 10^{-4}$
	$A_5 = -1.05760 \times 10^{-6}$
	$A_9 = 1.99950 \times 10^{-9}$
	$A_{10} = -9.49660 \times 10^{-10}$
第13面	$\kappa = 0.00000 \times 10^0$
	$A_1 = 1.15720 \times 10^{-4}$
	$A_5 = -5.34510 \times 10^{-6}$
	$A_9 = 1.72140 \times 10^{-7}$
	$A_{10} = -2.20400 \times 10^{-9}$
$f_1 = -18.260, f_2 = 14.686$ $f_3 = 25.460, f_{21} = 30.016$ $f_R/f_1 = -0.452, f_R/f_2 = 0.562$ $f_R/f_3 = 0.324, f_R/f_{21} = 0.288$	

15

1. 及び、13～17に含まれる実施例である。実施例6の断面図を図11に、レンズ収差図を図12に示す。また、レンズデータを表11、表12に示す。

【0053】

【表11】

$f=5.42\sim10.3$ , $F_{FD}=2.9\sim3.85$ , $2\omega=64.8^\circ\sim36.6^\circ$				
面番号	r	d	$n_d$	$v_d$
1	20.278	1.000	1.883	40.8
2	8.336	1.980		
3	-306.301	0.800	1.516	64.1
4	7.875	1.600	1.847	23.8
5	15.834	A		
6	9.137	1.220	1.806	40.9
7	-22.737	0.200		
8	10.276	1.100	1.773	49.6
9	-32.327	0.800	1.847	23.8
10	3.166	0.950		
11	-4.736	1.000	1.816	46.6
12	-4.48	B		
13	33.559	0.500	1.729	54.7
14	-9.883	C		
15	$\infty$	2.700	1.516	64.1
16	$\infty$			
	f	A	B	C
広角端	5.42	11.583	2.798	1.1918
中間域	7.47	6.6929	4.8643	1.3266
遠望端	10.3	1.8438	6.9381	2.1946

【0054】

【表12】

面番号	非球面の円弧走数、 非球面係数
第6面	$\kappa = -2.81200 \times 10^0$
	$A_4 = 7.39610 \times 10^{-4}$
	$A_6 = 6.50910 \times 10^{-4}$
	$A_8 = -4.17880 \times 10^{-4}$
	$A_{10} = 6.95530 \times 10^{-5}$
第7面	$\kappa = 2.22160 \times 10^{-1}$
	$A_4 = -4.76830 \times 10^{-4}$
	$A_6 = 7.56400 \times 10^{-4}$
	$A_8 = -5.49640 \times 10^{-4}$
	$A_{10} = 1.08670 \times 10^{-4}$
$f_1 = -15.714$ , $f_2 = 10.235$	
$f_3 = 10.708$ , $f_{21} = 36.863$	
$f_H/f_1 = -0.345$ , $f_H/f_2 = 0.530$	
$f_H/f_3 = 0.506$ , $f_H/f_{21} = 0.147$	

【0055】（実施例7）実施例7は請求項1～3、7～9、及び、12～17に含まれる実施例である。実施例7の断面図を図13に、レンズ収差図を図14に示す。

(9)

特開2002-196240

16

す。また、レンズデータを表13、表14に示す。

【0056】

【表13】

$f=8.25\sim23.4$ , $F_{FD}=2.88\sim5.19$ , $2\omega=29.7^\circ\sim10.8^\circ$				
面番号	r	d	$n_d$	$v_d$
1	352.092	1.1	1.7725	49.6
2	7.798	4.07		
3	15.041	2	1.84665	23.8
4	31.135	A		
5	10.501	3.54	1.8061	40.9
6	-153.842	0.2		
7	13.935	1.79	1.7432	49.3
8	-18.479	1.12	1.60518	25.4
9	9.574	1.32		
10	-87.968	3.03	1.69865	30.1
11	214.039	B		
12	27.534	2	1.72916	54.7
13	-46.977	C		
14	$\infty$	2.97	1.51633	64.1
15	$\infty$			
	f	A	B	C
広角端	8.25	17.34	7.22	0.50
中間域	13.90	7.51	13.89	0.57
遠望端	23.40	1.71	25.50	0.64

【0057】

【表14】

30

40

17

面番号	非球面の円筒定数、 非球面係数
第2面	$\kappa = -7.3983 \times 10^{-1}$ $A_4 = 9.43850 \times 10^{-6}$ $A_6 = 9.90240 \times 10^{-7}$ $A_8 = -2.76680 \times 10^{-8}$ $A_{10} = 2.81530 \times 10^{-10}$
第5面	$\kappa = -2.07546 \times 10^{-1}$ $A_4 = -2.29120 \times 10^{-6}$ $A_6 = 2.50320 \times 10^{-7}$ $A_8 = -2.26690 \times 10^{-8}$ $A_{10} = 5.48850 \times 10^{-10}$
第11面	$\kappa = -8.63780 \times 10^{-2}$ $A_4 = 4.74740 \times 10^{-6}$ $A_6 = 1.29050 \times 10^{-6}$ $A_8 = 9.51120 \times 10^{-7}$ $A_{10} = -3.74230 \times 10^{-8}$
$f_1 = -17.480, f_2 = 15.482$ $f_3 = 24.080, f_{21} = -88.831$ $f_g/f_1 = -0.472, f_g/f_2 = 0.533$ $f_g/f_3 = 0.343, f_g/f_{21} = -0.093$	

【0058】

【発明の効果】以上のように構成したので下記のような効果を得る。CCDを用いたデジタルスチルカメラ等に用いるのに好適な、2〜3倍程度の変倍比で、高い結実

(10)

特開2002-196240

18

\* 像性能を有したズームレンズを提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例1のレンズ断面図である。

【図2】実施例1の広角端(a)、中間域(b)、望遠端(c)におけるレンズ収差図である。

【図3】実施例2のレンズ断面図である。

【図4】実施例2の広角端(a)、中間域(b)、望遠端(c)におけるレンズ収差図である。

【図5】実施例3のレンズ断面図である。

10 【図6】実施例3の広角端(a)、中間域(b)、望遠端(c)におけるレンズ収差図である。

【図7】実施例4のレンズ断面図である。

【図8】実施例4の広角端(a)、中間域(b)、望遠端(c)におけるレンズ収差図である。

【図9】実施例5のレンズ断面図である。

【図10】実施例5の広角端(a)、中間域(b)、望遠端(c)におけるレンズ収差図である。

【図11】実施例6のレンズ断面図である。

20 【図12】実施例6の広角端(a)、中間域(b)、望遠端(c)におけるレンズ収差図である。

【図13】実施例7のレンズ断面図である。

【図14】実施例7の広角端(a)、中間域(b)、望遠端(c)におけるレンズ収差図である。

【符号の説明】

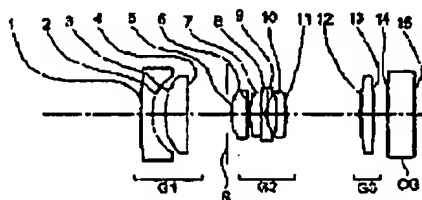
G1 第1レンズ群

G2 第2レンズ群

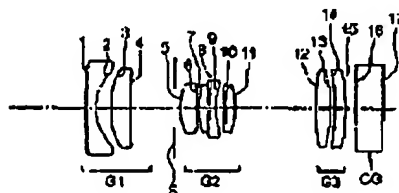
G3 第3レンズ群

S 開口絞り

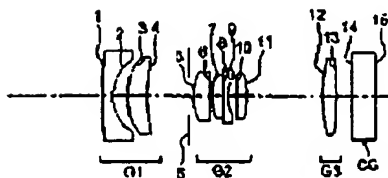
【図1】



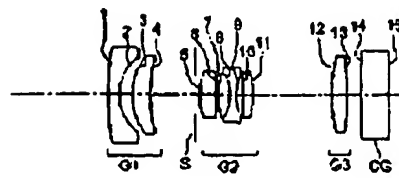
【図3】



【図5】



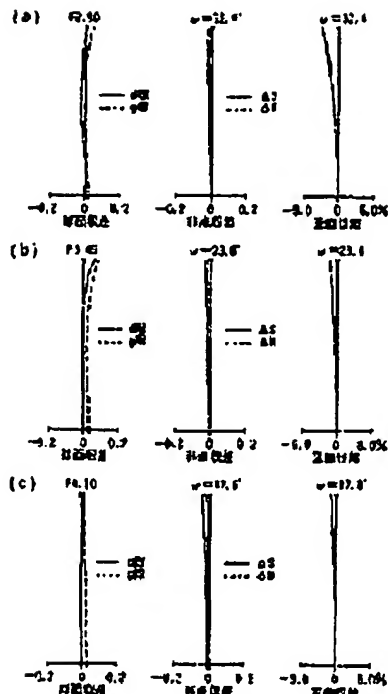
【図7】



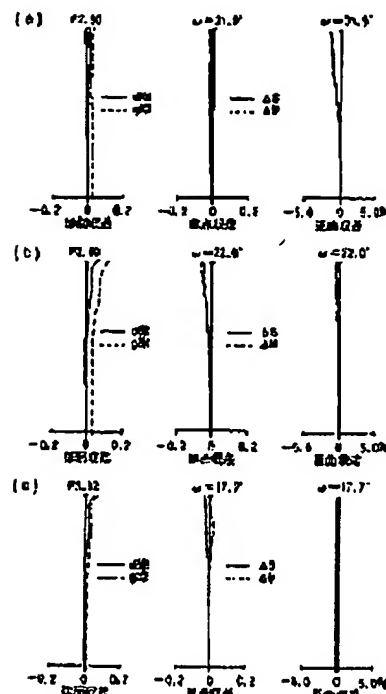
(11)

特開2002-196240

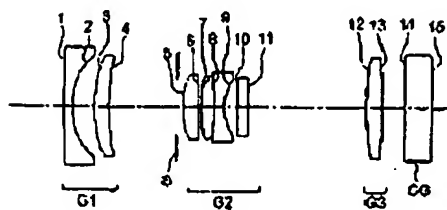
【図2】



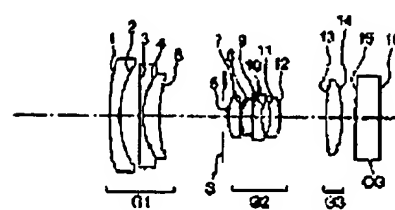
【図4】



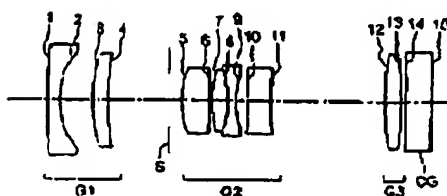
【図9】



【図11】



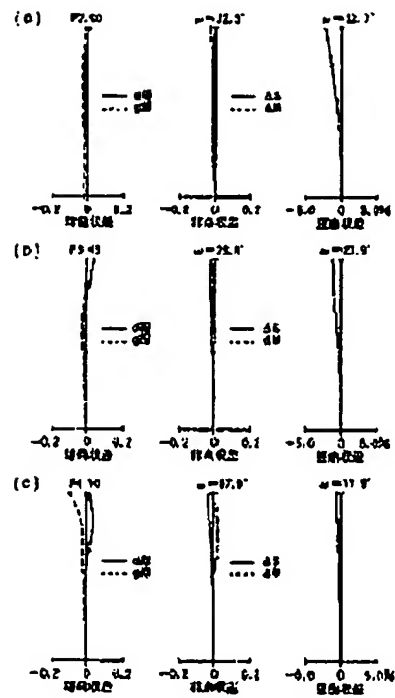
【図13】



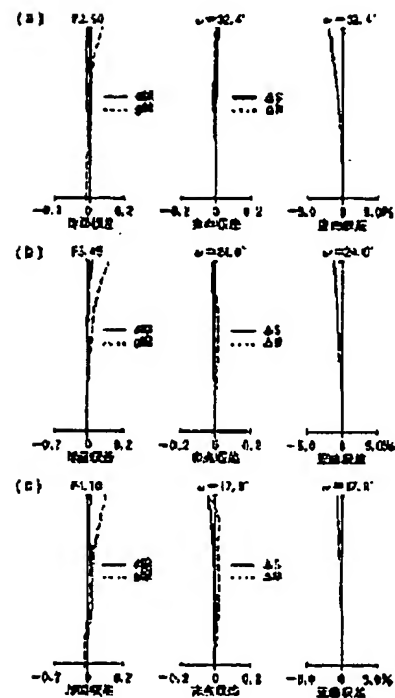
(12)

特開2002-186240

【図6】



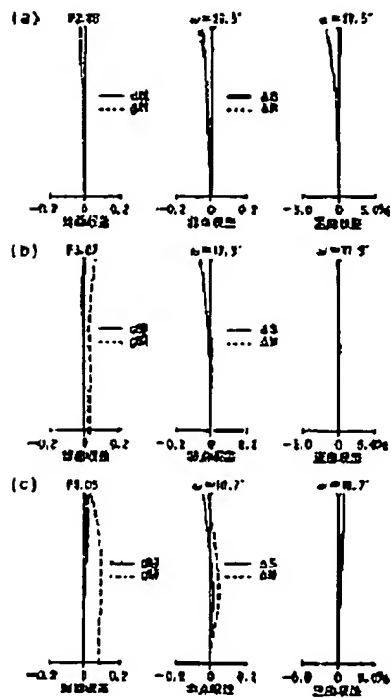
【図8】



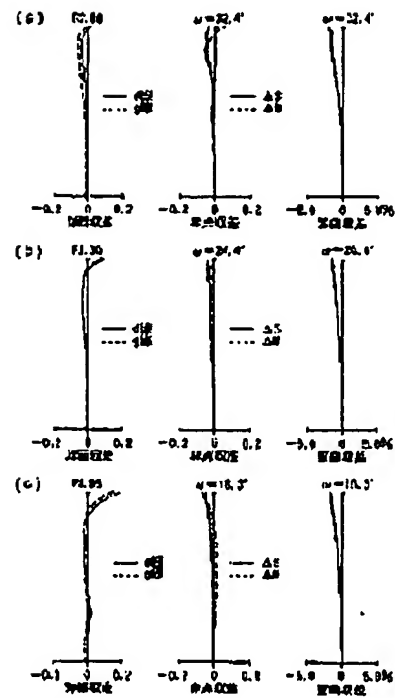
(13)

特開2002-196240

【図10】



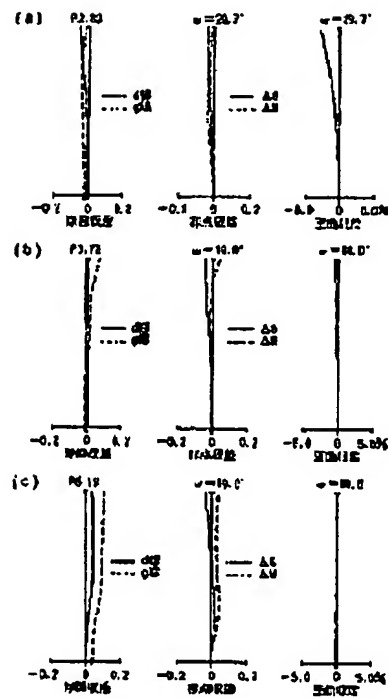
【図12】



(14)

特開2002-196240

【圖 14】



Searching PAJ

Page 1 of 2

25-278

**PATENT ABSTRACTS OF JAPAN**

(11)Publication number : 2002-196240

(43)Date of publication of application : 12.07.2002

(51)Int.Cl.

G02B 15/20

G02B 13/18

(21)Application number : 2000-392498

(71)Applicant : KONICA CORP

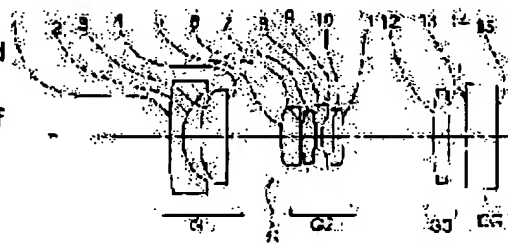
(22)Date of filing : 25.12.2000

(72)Inventor : NOBE KUNIAKI

**(54) ZOOM LENS****(57)Abstract:**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide a zoom lens suitably used in a digital still camera using a CCD, having a variable power ratio being about 2 to 3 and having high image-forming performance.

**SOLUTION:** This zoom lens is provided with three lens groups, that is, a 1st lens group having negative refractive power, a 2nd lens group having positive refractive power and a 3rd lens group having positive refractive power in order from an object side, and the 2nd lens group is constituted of a positive lens, a doublet consisting of a positive lens and a negative lens, and one lens in order from the object side. In the case of varying power from a wide-angle side to a telephoto side, the power is varied by moving the 1st, the 2nd and the 3rd lens groups on an optical axis so that space between the 1st and the 2nd lens groups may be decreased and space between the 2nd and the 3rd lens groups may be increased. The zoom lens satisfies a conditional expression  $0.4 < f_W/f_2 < 1.0$  when the focal distance of the 2nd lens group is defined as  $f_2$  and the focal distance at the wide-angle end of an entire optical system is  $f_W$ .

**LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]



Searching PAJ

Page 2 of 2

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office